令和４年度 第４回 荒尾市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日時：令和５年３月２４日（金）午後２時００分～３時３０分
場所：荒尾総合文化センター　２階会議室１．２
出席者：荒尾市地域公共交通活性化協議会委員２７名（内代理出席者３名）
※別紙出席者名簿のとおり
【事務局】
（総務部総合政策課）
石川部長　末永課長、林田政策推進室長、坂口、森

１．開会

末永課長が、開会を宣言した。

２．会長あいさつ

本日は年度末のお忙しい中に出席いただき、感謝申し上げる。今年度は計画策定のために既に３回の協議会を開催し、議論を頂いた。本日の協議会では、計画（案）の確認・策定にかかる審議を予定している。荒尾市の新しい公共交通ネットワークを構築する重要な計画であるため、活発なご審議をお願いする。

３．議事

（１）荒尾市地域公共交通計画（案）について

事務局（林田）が、資料 1-1 及び 1-2、参考資料に基づき、地域公共交通計画（案）パブリックコメントの結果、地域公共交通計画（案）について説明を行った。

審議の結果、出席者の承認を得て、原案どおり決議された。

《主な質問・意見など》

○　・大変良くできた計画だと感じた。概要版Ｐ４に将来像を数値で示しているが、路線バスの利用者数を増加させることを目標にしている。コロナ禍を通して現状維持や目標値を下げるようなこと計画も見受けられる中、目標を増加とすることは大事であると考えている。また、この目標値も難しい目標ではないと思っている。荒尾市では、１日に約 66,000 回の移動があり、82%が自動車によって移動している。公共交通はわずか 2,000 人程度、バスは４～500 人程度であることから、自動車から 3%程度が転換するだけでバス利用者は倍になる計算である。ほんの少しでも自動車を使うのをやめて公共交通を利用してもらうだけで達成できるものである。目標に向かって施策を実施して、達成してもらいたい。達成するための施策であるが、一つずつ実施することが達成につながる。事業実施には、事業者、自治体だけではなく、共創・協働で皆さんで達成してもらい

たい。

・運転手不足の問題があり、深刻化している。別の地域では繁忙期に運転手不足で車両全台を稼働できないという状況があった。本地域はいかがだろうか。

○ ・バス部門の運転手不足について、現状ではなんとか維持しているが、全国の傾向と同様で乗務員のなり手不足、運転手の高齢化が進行している。路線維持のためにも乗務員の確保は課題として感じている。

○ ・タクシーにおいても人員は不足している。若者のなり手不足、高齢による退職で、乗務員はここ５年で 10 名程度減少した。

○ ・このような状況であれば、バスは幹線輸送に徹せざるを得ない。タクシーも効率化の観点から乗合化するという方向に舵を切らなければ持続可能な公共交通とならない。このような場で、皆さんに状況を知っていただき、取り組んでいけたらと考えている。

○ ・私の地区では高齢化が進んでいる。現在車を運転出来ているが、今後どうなるかと考えている。運転できなくなった際に、送迎できる家族がいればよいが、いなければ公共交通しか頼りにできるものはない。地域で話しているのは、自分事として公共交通利用を考えるようにということである。公共交通が無くなると手遅れであるため、一生懸命利用する必要があると思っている。

（２）令和５年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

事務局（森）が、資料２に基づき説明を行った。

審議の結果、出席者の承認を得て、原案どおり決議された。

≪意見等なし≫

[報告事項]

（１）令和４年度実証事業の結果について

事務局（坂口）が、資料３に基づき、実証事業結果について説明を行った。

≪意見等なし≫

（２）熊本県地域公共交通計画の数値指標のモニタリング結果及びコミュニティ交通の取組み状況、バス事業者のデータ公表の内容について

熊本県交通政策課が、資料に基づき説明を行った。

○ ・コミュニティ交通の取組み状況について荒尾市の AI デマンドタクシーと乗合タクシーがひとくくりで記載してあるが、運行の中身は全く異なる

	ものである。より詳細な運行内容等は調査しているのか。
○	・市町村に対して調査を実施し、市町村担当者には公表している。
○	・生活交通維持・活性化総合交付金の財源はどの程度あるのか。
○	・全体で約 2 億円である。運行補助に関しては各市町村の負担割合から各市町村に補助額を算出しており、補助金の上限額までは至らない。導入改善にあたっては要望額の通り補助金を支出できている。

4．閉会

末永課長が、閉会を宣言した。